

はまぎく

第106号
発行

〒970-8003
いわき市平下平窪字熊ヶ平6番地
TEL (0246) 23-5311
FAX (0246) 23-5312
はまぎく荘新聞編集委員会
HP <http://hamagiku.i-fukuin.com>
E-mail: kuma-house@mx5.et.tiki.ne.jp

●紙面紹介●

- 1面 共生共感/遠足
- 2面 今年度事業計画
施設設備等報告
研修報告/行事計画
- 3面 障がい者体育大会
花見/教室発表会
おめでとうございます!
- 4面 新職員紹介/新しい仲間
感謝
小島保育園との交流会
お知らせ/編集後記



遠足でのひとこま



共生共感

所長 志賀道子

小学二年の男の子が北海道の山中に置き去りにされたニュースに、どれだけの人が改めて「虐待」としつづける境目は？を考えたでしょうか。

そこで「子どもにも問題行動があった場合にどう伝えるか」「障がい者に問題行動があった場合にどう伝えるか」と言い換えてみて下さい。

私たち障がい者を支援する福祉サービス提供者のあるべき姿について、ちょっと振り返ってみて下さい。上から視線で感情的に怒ったり、心理攻撃になっていませんか。こういう経験を積み重ねて、自己嫌悪につながった経験はありませんか。

子育てを経験された人は、つい感情的になりそうな時やなった時に、怒鳴ったり、脅

しや体罰による行動をとったことがあると思います。たぶんお子様はトラウマになっているか『怒られた』という思いしかないかもありません。子育てを経験されていない人は、自分の未熟さが自信を無くし相手に伝えることができないう言動でおさえつけているかもしれません。両者の言動は、子どもに障がい者に不安を与えているだけです。これがエスカレートすると歯止めがきかなくなり、安全が脅かされ『虐待』という危険を伴う結果になるのです。

人間ですので、感情的になっってしまうことは誰しもあります。そんな時に自分を正当化しないで下さい。言い過ぎたことをしてしまった、行き過ぎたことをしてしまつたと反省し冷静になってみて下さい。そして、余裕をもって相手の気持ちに理解を示し、物事の悪い悪いを伝えられるようになれば、自信がきます。誰だつて認められたいと思つています。ほめてもらいたいと思つています。支援者の立ち位置は、向かいあってにらみ合うのではなく、ご本人の後ろに寄り添い、本人の意思の実現

のために一緒に考えましょう。そして、生活のあらゆる場面で本人の意思が最大限に反映された選択を支援しましょう。人は生まれながらにして「人間としての尊厳」「幸福になる権利」を有しています。私たちが立つところの理念と方針を改めて唱和し、確認することをしましょう。

「聖書の信仰に基づく
福祉事業の実現を
目指します」



遠足

五月二十六日、21世紀の森公園へ遠足に出かけました。春のぼかぼか陽気と夏の暖かい空気を同時に感じながら、写真撮影や園内を散策しました。また、日陰でおやつを食べながらゆっくりと過ごす利用者さんもいました。

広々とした園内で皆と一緒に食べるお弁当は格別で、とてもおいしく感じました。風が強く吹いており、お弁当が飛ばされてしまった方もいました。体調不良者が出てしまい、全員で遠足に行く事ができませんでした。参加した利用者さんはとても喜んでいました。

今年度事業計画

次長 植原明美

「共生共感」を福祉の基本とし、その人なりの能力と障がいの特性に応じた生活の保障と自立した生活が出来るように支援することを基本方針とします。今年度は常勤二三名・非常勤六名の職員の構成で始まりました。施設整備では開所から四十年程になり老朽化が著しくなっております。整備予定として、受水槽改修工事（共同募金配分金交付が決定しています）・AED新規更新・車両購入・作業棟改修工事・LED交換工事を予定しており、利用者さんの高齢化・重度化からも快適な生活を提供してまいります。施設の正面には「共生共感」と刻まれた石碑があります。利用者と職員は共に、施設も地域と共に歩んでまいります。

支援

利用者一人一人の能力と障害特性を理解し、潤いのあるサービスの提供や個別支援計画に基づいた個人の希望する日中活動支援に努めます。また、今年度もアート活動に力を入れ、各自個性的な作品を数多く展示会に出品していきます。

医務

短期入所・日中一時支援を行なう事で、地域との交流や施設機能の充実を図ります。利用者さんの高齢化が進み、今迄健康でいた方が急に具合が悪くなったり、原因不明の発作や発熱、誤嚥性肺炎など

体調を崩すことが増えてきました。以前より救急車を要請することも多くなりました。

新しい職員も増えている為、緊急時の対応について全職員で再確認し、所内研修などで専門性を身につけることの必要性を感じています。これからも利用者さんの少しの変化にも目を向け、早期対応を心掛けていきたいと思っております。

給食

利用者様の高齢化・重度化が進んでいる為、個々の状態に合わせた食事形態の提供を行なっております。また、免疫力も低下してきている為、

施設整備等報告

はまぎく荘の顔、事務所玄関の修繕を行いました。スロープで車椅子でもスムーズに入れるように、腰かけて靴を脱ぎ、安心して手すりを掴んであがるように。何より自動ドアになりました。綺麗になった玄関を通って、ぜひお越しください。

築三十数年の建物です。各棟が独立しています。その為冬場、食堂に



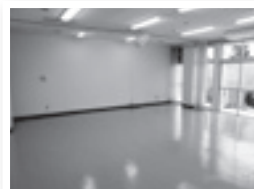
衛生管理（生で食べるものの消毒や中心温度の確認等）を行ない、衛生管理の徹底に努めていきます。

非常食についても、通常時の食形態に合わせた備蓄品を備え、緊急時であっても安心・安全な食事提供ができるようにします。

向かうには寒風にさらされてしまいます。女子棟廊下に風よけを設置し、特に高齢な女子利用者へ配慮しました。

日々皆が集い、様々な活動を行なうホールの床と壁紙を張り替えました。暖かい色合いで、更に明るい雰囲気になりました。

静かに音楽や視覚的な効果を感じるスノーブレン室、涼しげで落ち着いた壁と床の色に張り替えました。



福島県知的障害者施設合同研修会が、磐梯熱海『華の湯』にて行われ、参加して頂きました。

研修報告

主任支援員 蛭田美幸

「いま（現在）を生きる。これから（未来）を生きたい」といつまでも希望のある人生を」と題し、記念講演や基調講演、東北地区知的障害者福祉協議会及び福島県知的障害施設協会の動きについての報告がありました。一日目の佐々木常夫氏の記念講演で、物事をポジティブに考える事、効率的な仕事の仕方を聴き、参考にしていきたいと思えました。



行事計画

4月	花見
5月	障がい者体育大会 遠足
6月	所内研修 小島保育園との交流会
7月	グループ旅行（日帰り）
9月	みはま福祉祭 小島保育園との交流会 グループ旅行（日帰り②）
10月	芋煮会 幼稚園との交流会 所内研修 グループ旅行（一泊①）
11月	グループ旅行（一泊②）
12月	クリスマス・忘年会 所内研修
1月	生活習慣病予防検診
2月	所内研修 教室発表会
3月	保護者との一泊研修



五月十五日、初夏の
ようなすつきりとした
青空。福島市あずま
総合陸上競技場にて
県障がい者体育大
会が行われました。
朝早く出発し、選び
抜かれた六名の方が
フライングディスクと
ジャベリックスローに



県障がい者 体育大会



▶金メダルを獲得した山崎秀男さん



参加しました。メダル
を獲得できた方はわ
ずか一名、惜しく
も入賞を逃した方
はいましたが、今
年は率直に練習
不足が反省です。
それでも、道中
での買い物などを
行ない、外出、そ
のものを楽しめたの
ではないでしょうか。



はまぎく荘では、茶道教室
や生け花教室、お菓子作り
等、ボランティアの協力を得
て様々な教室活動を行って
います。
年度末には、一年間の活動
の振り返りと感謝の気持ちを
込め、いつもの教室活動の後
に食事会を行いました。今回

教室発表会

花見

今年の花見は、
四月十五日にはま
ぎく荘周辺でのん
びり散策して桜の
花を見ながら昼食
を食べる計画を立てていま
した。しかし、残念なことに前
後して風邪の症状や体調不良



の利用者さんが多
く出てしまいました
た。それでも、元
気な利用者さんだ
けでもと荘周辺散
策を行ない、桜を
見て「きれいだね」
「気持ちいいね」
と楽しんで頂きました。
来年は皆が元気な姿で、満開
の桜見物を計画したいですね。



参加していただいたのは、生
け花教室・福祉レク・手作り
おやつボランティアの先生
方です。
「利用者さんの一生懸命な
姿を見て私もがんばろうと思
える。」「いいものになるよう
試行錯誤している。」と話が
あり、真摯に利用者に向き
合っていたに感じています。
感激しました。

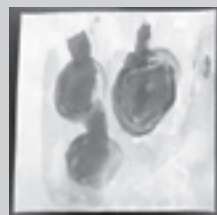


いつも楽しい教室活動をあ
りがとうございます。そして、
利用者さんの充実した日中活
動の為、これからもご協力よ
ろしくお願い致します。

おめでとうございます!

奈良県主催の障がい者芸術祭 [HAPPY SPOT NARA]

東日本大震災の被災地
枠で『ビッグ幡プロジェクト』に応募した、出崎
彦さんの「熟したザクロ」
が幡のデザインとして選
ばれました。思いのこも
った幡が東大寺の大仏殿前
に大きくはためきました。





新職員紹介



支援員 宍戸 寿成

今年度から支援員となりました、宍戸寿成と申します。私は大学時に行われた、はまぎく荘での実習を通して、福祉の仕事に興味を持ちました。実習の際に利用者の方たちや職員の方たちが笑顔でコミュニケーションをとっているのがとても印象的で、自分もそのような笑顔を共有できる暖かみのある支援員になりたいと思います、この職に就くことを決めました。



支援員 木村 泰久

四月より支援員としてお世話になって、木村泰久と申します。気付けば約三か月が経とうとしており、はまぎく荘で密な時間を過ごしていることを改めて感じています。いまは仕事をひとつずつ覚えていこうと、皆さんとのにぎやかな毎日を楽しんでいます。心豊かで楽しい生活が送れるように

支援をすることが私の目標です。大学では相談援助分野について学びましたが、利用者さんや先輩方には教わるのがたくさんあり、これからさらなる勉強の日々です。



支援員 薄葉 美紀

五月より支援員としてお世話になって、薄葉美紀と申します。福祉の仕事をするのは初めてで、ゼロからのスタートになりますので、私も勉強しながら利用者さん一人一人の支えになれる様に頑張ります。至らぬ点がありましたら、御指導して頂ければ幸いです。利用者さんとのコミュニケーションを大切に、笑顔で頑張っていきますので宜しくお願い致します。



事務補助 三浦のり子

六月より事務補助パートとして入職いたしました三浦と申します。私自身福祉の職場は初めてで、知識不足でまだまだ勉強することが多いですが、利用者さんの生活がスムーズに進むよう、日々向上心を持って努力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひ致します。

感謝

内郷美容組



合さんの地域貢献活動の一環として、散髪ボランティアがありまして、毎年行われているものです。今年も七名の組合員さんが利用者さんたちとの会話を楽しみながら、丁寧に散髪してくださいました。二十名の利用者さんたちが年末年始を前にきれいに变身し、新年を迎えることができました。いつもありがとうございます。

小島保育園との交流会



平成八年より「芋掘り」を行ない、地域交流をはかってきました。震災後、放射能の影響もあり休止していましたが、五年ぶりに復活しました。利用者さんと園児さんで大小様々なジャガイモを掘りおこし、あつという間に袋はいっぱい

ボランティア

アの方々が来所し、女子利用者の方皆さんにお化粧をして頂きました。



皆さん化粧に興味津々で、ファンデーションやアイシャドウ、口紅など自分の好きな色を選び、教えてもらいながら塗り、大変身してました。メイクが進むにつれ、笑顔になり、鏡を見てはうっとりする利用者さんも!! お化粧によって心も体もリフレッシュし、素敵な時間を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。

お知らせ

加藤恒夫さん

平成二十八年二月六日永眠。コーヒーとビールと鰻が大好きでした。若いころの話をたくさんしてくれました。ご冥福をお祈り致します。合掌。

編集後記

福祉の仕事に携わり十数年。当初の私は、自分らしさ、その人らしさで利用者に向き合い接することが何より大切だと思っていました。ここ数年でそうではないことに気がきました。極端な表現をすると、演じる。いわば職業人として、身を置くことが大切なのではないでしょうか。元々口調が荒いから、片付けられない性格で自宅も汚いから、ではなく、ここは職場なのです。

物を捨てるのが苦手な私、特に衣類は増える一方。一年通して気温が変わらなければ、ここまで服は要らないのに...などと考えてしまいます。これから夏本番です、くれぐれも体調を崩さぬよう乗り切りましょう。「はまぎく一〇六号」御高覧下さい。

新しい仲間

四月一日に、グループホームから佐藤金子さんが入所しました。肌身離さず持っているぬいぐるみに話しかけるほど優しく、困っている方が居たら手を差し伸べてくれる気遣いができる方です。よろしくお願ひ致します。

